

第11回「ハンガリー旅の思い出」2014年コンテスト作品

小島悠大さんの作品

旅の思い出 はじめてのハンガリー

僕は生まれてはじめて飛行機で外国旅行に行きました。6月19日から一週間学校を休んで親せきのおばさんと二人でハンガリーへ折紙を教えに行きました。

ウィーンまでの機内では折紙を折ったりアニメを見たり、食事もしました。

ウィーンからは小さなプロペラの飛行機に乗りかえて、窓から下の景色が雲の間から見えるほどの高さでとびました。おばさんが「あれがドナウ川でくさり橋も王宮も見えるよ」と教えてくれました。あっという間に着陸しました。

スーツケースを受け取って外に出た所でおばさんの知り合いが待っていました。

車で市内に入り、白い橋をわたってお城や古い建物の並ぶ丘の上の大きな教会の前のホテルに着きました。

食事の招待をことわって寝ました。

ぐっすり寝たので朝明るくなった4時半ごろ起きました。頭に浮かんだ折紙をすぐ折りました。おばさんも起きていっしょに外へ散歩に出ました。白いおとぎ話に出てくるようなとりでの上からドナウ川の向こう側にりっぱな国会議事堂が見えました。ああ外国なんだなあと思いました。半そででは寒かったのでホテルにもどって朝ごはんに行きました。

食堂には人は少ししかいませんでした。ハムやチーズ、サラミなどがきれいにならんでいました。トマト、きゅうり、白いピーマンもありました。ヨーグルトも三種類ぐらいありました。パンもたくさん種類がありましたが僕はトースト二枚と大すきなスクランブルエッグと長いウィンナーを取りました。とってもおいしくておなかいっぱいになりました。

8時半におばさんの友だちと親せきのおじさんが車で迎えにきてくれて、ブダペストから百キロぐらい北東の山の中の小さな村でユネスコの世界遺産になっているホッローケーの小学校の分校に着きました。校長先生や村の人たちが入り口で待っていてくれました。教室には僕より小さい18人の生徒と先生方が席についていました。日本から持っていった折り紙をひろげて好きな色の紙をとってもらいました。

「何が折りたいですか」と聞きました。一番多かったのが「はこ」でした。みんなに見えるように手を高くあげて折りかたを教えました。「ここまでできた人」と聞くと「これでいい?」とか「ヨー?」僕が「ヨー!」で通じました。もちろんアンナさんやおばさんも通訳してくれました。次は「かえる」でした。「動くかえるを作ります」と言うのと「エーできるの?」といわれました。とちゅうで「ヨー?」とか「手伝ってー」と次々にならんでじゅんぱん待ちになりました。できた子供達は喜んで遊んでいました。



「次は?」と聞いたら校長先生が「あまり時間がないからかんたんのを」と言われヒコーキにしました。男の子達は自己流で作ったりしましたが、少し直してやるともっと飛びました。教室ではせまいので外に出てとばしました。言葉は通じなくてもみんな友達になりました。村は下水工事中で見学できませんで

したが、石だたみの道の先にちいさな教会が見えました。

村長さんや校長先生といっしょにお昼をごちそうになり、となりのホールで子供達の民族ダンスの練習を見せてもらいました。おみやげに村の写真の本や絵はがきなどをもらって、ブダペストにもどりました。少し休んでからホテルの近くの有名なケーキ屋さんでアイスクリームをたべました。おふろに入って日記を書いてねました。



次の朝も歩いて王宮の丘を見学しました。教会の前の広場は石だたみの取りかえ工事中で、歩くのが大変でした。それでも多勢の観光客が集まっています。

王宮の入り口近くにケーブルカーがあって、それにも乗りました。くさり橋の両側にはライオンの像がありましたが、とてもやさしい顔をしていました。王宮の前の庭からペスト側の町がとてもきれいでした。王宮の中の美術館にも入りました。

とても深く急なこうばいのエスカレーターで地下鉄にも乗りました。ヨーロッパ大陸で最初にできた小さな地下鉄に乗って市民公園の温泉のある駅で降りて外に出てびっくりしました。広い公園の中に建っている立派な建物が温泉なのです。なかには入りませんが本当にゆげが出ている温泉なのです。みんな水着を着ていました。

英雄広場は本当に広くて多勢の観光客が小さく見えました。まっすぐの広い並木の通りをドナウ川に向って歩きました。途中リスト音楽院や聖イシュトヴァーン大聖堂にも入りました。どこもすごいなあと感じました。写真やテレビで見たヨーロッパに今自分がいることが信じられない気持ちでした。古い大きな建物の中央市場で先生やクラスの友達、サッカーのコーチやなかま達におみやげをかいました。何にしようか決めるのにとっても時間がかかりましたが同じキーホルダーにしました。ずっとお天気がよかったので毎日バスや ترام、地下鉄に乗って街の見学をしました。お昼はおばさんの知り合いの家でごちそうになったり、小さなレストランで食べたりしました。

帰る前の日は少し雨でしたが、地方のヴェスプレームという町に住んでいるハンガリー折紙協会の先生の所に連れて行ってもらいました。自分で考えて作った作品の本や折紙を見せてもらったり、僕は自分で考えて折ったのを見てもらったり、いっしょに教えあったりとても楽しい時間でした。お昼をごちそうになってから、バラトン湖へ行きました。日本のびわ湖くらいの広さだそうです。途中でケストヘイという大きな町の郊外にある日本—ハンガリー小学校に寄りました。もう夏休みで生徒はいませんが、先生方が5人で待っていて、学校の中を案内してくれました。

この学校は日本人の寄付でできた学校で幼稚園と小学校がいっしょになっていて、日本の書道やそろばんも教えているそうです。

帰るときに先生の子供達に来ていっしょに写真を撮りました。ケストヘイはバラトン湖の一番下にある町で、そこから湖の反対側を渡ってブダペストにもどりました。



僕は折紙のことしか考えていなかったのですが最後の夜、おばさんと漁夫のとりでから見たブダペストの夜景の美しさはわすれられません。

この次はもっとハンガリーのことを勉強して、もっともっとハンガリーを楽しみたいと思います。

ホッローケーの子供達から「来年も来てね」と言われたのがとてもうれしかったです。また行きたい気持ちになりました。
